

デモを企画してみよう！

何度か「デモ」に参加してみた。自分の町でも出来ないかな？ こんなデモをやってみたいな。だけど、デモってどうやったら出来るの？

そんなデモ・ビギナーさんのために、マニュアルを作ってみました。

いろいろな形のデモがあるので、これはあくまでもひとつの例として参考にしてください。

デモ企画の流れ

どんなデモをやりたいかを考える



関係各所に申請書・届出書を出す



スタッフを確保する



デモを告知する



備品を準備する



当日スタッフの役割を決める



デモ終了後のこと



① どんなデモをやりたいかを考える、仲間を集める

始めに、どんなデモにしたいかイメージしてみましょう。平日がいいか、週末がいいか？ 時間帯はどこを歩きたいか？ どんな人に参加をよびかけるか？ 参加者は何人くらいの規模にするか？ 手伝ってくれそうな友人・知人はどのくらい集められるか？など。

コース選びの要点

- ・せっかくのアピールの場なので、出来るだけ人通りが多いコースがベター。通行人が少ないルートだと、けっこう寂しいです。ただし、学校や幼稚園、あるいは官公庁の付近は避けた方が無難。警察の人が、お勧めコースを教えてくれることもあります。もし商店街などをコースに組み入れる場合は、事前に商店街の人と打ち合わせ、あるいは声掛けをしておくといいでしょう。
- ・集まる人数にもよりますが、出発・終了地点はある程度大きな広場が必要です。そのため、コースは出発・終了地点をベースに考えましょう。
- ・デモの場合、隊列は道路の左端を歩くことになるため、コースは左折を基本に作ります。

② 関係各所に申請書・届出書を出す

大体の内容が決まったら、関係各所に申請書・届出書を出します。自治体によっては公安条例（条例の名前は自治体で異なります。「集会、集団行進及び集団示威運動に関する条例」（東京都、京都市等）、「行進又は集団示威運動に関する条例」（愛知県等））があり、デモに関する手続き等が決まっているところもありますので、事前にネットなどで確認しておきましょう。

各種届出の窓口は以下の通りです。

★デモの出発・解散場所（公園など）の利用許可 → その場所の管理事務所など

場所によって「集会はダメ」「出発前の集合だけならOK」など色々ですので、まず電話で相談するのがベター。公園などの場合、公園占有料が掛かる場合があります。

★デモの許可 → デモの開催地を管轄する警察署

まず所轄の警察署に「デモをやりたいのですが、どのような手続きが必要ですか？」と問い合わせしてみましょう。東京都の場合は、警視庁の方が話が早い場合があります（警備一課、03-3581-4321）。所轄警察署の場合、対応する部署は、警備課や交通課です。

最初に打ち合わせを行います（平日の昼間）。届け出に必要な項目は以下の通りですので、打ち合わせの前に決めておきましょう。自分の名刺、歩きたいコースの地図も持参すると便利です。

1. 組織名 （グループ名など。XXXデモ実行委員会、などでも良い）
2. デモの名称 （XXX デモ、など）

3. デモの目的（例えば「安保法案の廃案を求める」など）
4. 日時
5. 主催者
6. 現場責任者
7. 大体のコース（集合地点、解散地点、どこを通りたいか）
8. おおまかな参加人数（50人～100人くらい、などザックリしていても良いですが、警備に影響するので、あまり過小に見積もらないこと。）
9. 参加者の年代（子供がいたり、高齢者が多い場合の配慮のため）
10. 車両の使用有無（アンプ等を載せたりする車を出すか否か）
11. 出発地・解散地での集会の有無（デモ終了後に参加者がそのまま解散する「流れ解散」にするか、再度集合して話合ったりするか）

打ち合わせでは、デモの内容やコースの選定、アピールの方法などを説明します。歩行者天国などの交通状況、他のデモと重ならないか、なども考慮しながら、届出の内容を固めます。安全面なども考えて、コースを変更しなければならないこともあります。

内容が固まったら、申請書を提出します（デモ集合時間の2週間～72時間前まで）。申請書には印鑑の押印が必要です。その後、デモの48時間前までに、警察から許可証が発行されるので（電話で連絡があります）、印鑑を持って取りに行きます。この許可証は、デモの当日に必ず持参します。

なお、道路使用許可申請の印紙代や公園の占有料などで、数千円程度の費用が掛かります（場所による）。

③ スタッフを確保する

当日に動いてくれるスタッフを募集します。役割は沢山あるので（特に警備スタッフは多いほうが良い）、友人、知人に声をかけたり、ボランティアスタッフ募集をかけたりに、出来るだけ多くのスタッフを集めます。ただし、デモの趣旨やどんなデモにしたいか、などの思いは、共有しておきましょう。

スタッフとの連絡は密に取り、出来るだけ事前にミーティングを行って役割分担を決めておくようにします。可能であれば、一度でも顔合わせをしておくと、当日より安心です。

人数が多くなりそうな場合は、各役割にリーダーを決めておきます。

また、不測の事態に備え、可能であれば医療関係者や弁護士さんなどにお手伝いをお願い出来れば、より安心です。

④ デモを告知する

デモの許可もあり、スタッフの確保の目処がたったら、デモの告知をします。

告知には色々な方法があります。口コミ、twitter や facebook、LINE などの SNS、メーリングリストへの投稿、イベント告知サイトへの登録、新聞の地域欄への投稿などは、お金が掛からず、情報の拡

散も見込めます。予算に余裕がある場合は、フライヤーやイベントカード（ポストカード大のカード）を作り、協力してくれそうなお店などに置いてもらったり、友人に配布したりします。余裕があれば、地元新聞社などにプレスリリースを出して、取材をお願いしてみましょう。プレスリリースは、A4版1枚程度にまとめ、デモの趣旨、日時、場所、問い合わせ先などを書いて、「取材のお願い」としてメディアに宛ててFAXします。

⑤ 備品を準備する

少人数で短い距離だけのデモであれば、備品はそれほど必要ありませんが、大人数の集まるデモの場合は、いろいろと準備するものがあります。

・プラカード、バナー（横断幕）など

デモの趣旨が、沿道の人たちにわかるようなプラカードやバナー。基本的には参加者が持参することが多いですが、何も持っていないけれど、何か持ちたい、という人のために、貸し出し用のものを用意すると便利です。事前にイメージファイルを用意し、ネットプリントやWEBサイトからダウンロード出来る様にしたりも出来ます。何も書いていないプラカードだけを用意して、参加者に自分の言葉を書いてもらっても良いでしょう。

バナーを用意する場合は、隊列の幅などを考慮したサイズにします。デザインしたものを印刷する場合は、「横断幕、印刷」などでWEB検索すると、業者の情報が出てきます。ただ、必ずしもお金をかけてプリントする必要はありません。横長の布に、耐性インクで文字や絵を入れたもので十分使用できます。布は、手芸屋さんやDIYショップなどで入手できます。

・メガホン・拡声器など

アピールの内容を沿道の人に伝えるための音響機器。自分で持っていない場合は、レンタルサービスなどで一日単位からレンタルすることが可能です。レンタル業者は「メガホン、レンタル」などのキーワードでWEB検索すると、たくさん出てきます。値段は性能によって色々ですので、人数によって必要台数などを計算しましょう。音楽などを流す場合は、アンプなども必要になります。これも、ワイヤレスマイクやスピーカーなどと共に音響レンタル屋さんなどで借りることができます。商店街のアーケードなどを歩く場合は、それほど大きな音響機器は必要ないので、iPodなどの音楽プレーヤーにハンディスピーカーを繋げたり、カラオケ機器で代用しても良いでしょう。

それぞれの機器は、持ち主がわかるようにします。特にレンタルした機器は必ず使用責任者を決め、その責任者はデモ終了後に必ず責任を持って機器を回収するようにしておきます。

・文房具、カメラ、トランシーバー、雨具、懐中電灯

隊列の整列の際には、PPテープなどの紐があると便利です。そのほか、あると便利なのは、マジックなどの筆記用具、画用紙、ガムテープ、ホイッスル、輪ゴム、ウエットティッシュなど。ほかに、記録のためのカメラなども用意しましょう（スマホでも十分です）。夕方～夜間の開催の場合は、安全のために懐

中電灯は多めに用意しましょう。雨天の場合の対策も必要です（機器の防水、レインコートなど）。
トランシーバーもあれば便利ですが、無い場合は携帯でもOK。その場合は、スタッフ同士が互いの電話番号を把握している必要があります。

・コースマップ、トイレマップ

子供連れなどで、どうしても途中で抜きたい、という方などのために、あらかじめコースマップを何枚かプリントしておきます（告知チラシにマップを載せている場合は不要）。

また、トイレを聞かれることも多いので、予め付近のトイレマップを作り、何枚か印刷しておくとう便利です。

・スタッフを判別できるもの

参加者が困った時に、直ぐにスタッフに声を掛けられるよう、スタッフ用のIDタグやタスキ、バンダナなどを用意します。人数が多い場合は、カラーテープを腕に巻いたり、テープを短く切って手首に巻き、ホチキスで止めても良いでしょう。

・救急箱

不測の事態に備えて、医療の心得のある救護スタッフを立てるのがベターですが、いなければ救急箱は用意しましょう。本格的なものは必要ありません。一般家庭にある常備薬程度のものでOKです。

・車両

大きなアンプなどの荷物がある場合などは、車両の手配が必要です。基本的には、デモ隊の最前列で先導するような形がベター。また車両を出す場合は、デモ申請のときに申告が必要です。マニュアルの車両はデモには向きませんので、AT車を用意します。デモの出発前は、どこに駐車するか、どこから隊列と合流するかを決めておきます。安全のため、運転手と助手席の最低2名で乗車します。

⑥ 当日スタッフの役割を決める

・**責任者**・・・デモ全体の責任者です。当日は、単独行動は取らず、常に隊列やスタッフと共にいるようにします。警察との折衝やデモ中のMCなども行います。

・**受付**・・・参加者からの質問（トイレはどこ？近くにコンビニはありますか？ベビーカーでも参加できますか？など）や、メディアの対応を行います。各役割の連絡係を兼ねることもあるので、2名以上がベター。

・**隊列整理**・・・出発前、参加者に隊列をつくってもらいます。道路の幅によって、1列に何名にするかが変わってきます。時間通りに出発するためにも、PPテープなども使って、手早く整列してもらえよう声掛けします。少なくとも3名以上（隊列前・中・後に分かれて整理）。

・警備・・・隊列の警備を行います。デモは、基本的に道路を歩くこととなりますので、安全には十分配慮する必要があります。警備には警察も協力してくれますが、警備スタッフの数は出来る限り多いほうが望ましいです。

公道を歩くので、コースの途中には信号が何箇所か出てきますが、隊列が黄色や赤信号の時に、横断歩道に取り残されることのないように、注意します。

歩く早さにも注意します、隊列の前の方の足が速いと、後ろの方が追いつかなくなることもありますので、警備スタッフは常に連携をとりながら、全体の速度にも気を配ります。

特に、子供連れの方、高齢者の方、介助が必要な方などは専用の隊列をつくるなどして、専用スタッフが付くようにしましょう（警察の警備の担当者にも、ひと言伝えておくと安心です）。

特に子供連れの方がいる場合は、以下の点に注意します。

- ・スタッフはほかの隊列より多めに配置する。
 - ・あらかじめ、参加者の荷物が多いたときは持つのを手伝う
 - ・ベビーカーが大変そうだったら押すのを手伝う
 - ・子供が寝てしまって、抱いて歩かなければいけない親御さんの荷物など、声をかけてあげる。
 - ・歩いて参加のこどもが飛び出さないように、常に注意をはらう。
 - ・子供たちに声をかけながら歩く

また、歩行者や参加者同士で衝突が無いように注意します。デモの趣旨と関係の無いチラシや広告などを配布していたりする人がいたら、デモ中は遠慮してもらいます。もし何か不測の事態が発生した場合は一人で対処せず、必ず複数名で対応します。弁護士などの専門家が参加している場合は、立ち会ってもらいます。状況に応じて、スマホのカメラやビデオなどで記録も取っておきます。

・救護・・・医療関係者がベターですが、いない場合は担当者を決めておき、救急箱を管理してもらいます。救護担当者とわかるように、「救護」と書いた腕章をするなど目立つような工夫をしましょう。気分が悪くなったりした人を、隊列から離脱させたり、付き添ったり、場合によっては車を手配したりします。

⑦ デモ終了後のこと

流れ解散の場合は、終了地点に到達した時点で「お疲れさまでした」となりますが、そのままトークなどの集会を行う場合は、隊列を集会場所に誘導します。

終了後は、備品の回収・返却、ゴミの回収などを、参加者・スタッフで手分けして行います。余裕があれば、参加者の感想や街の人々の反応を聞いてみましょう。

また、日を改めてでも良いので、スタッフと反省会を行うと、次回への開催ノウハウに繋がります。

⑧ その他

街の人たちとコミュニケーションしよう

デモ、というと「XXXハンターイ!」「XXXXは、XXXXしろー!」というシュプレヒ・コール

をイメージする方が多いかもしれません。でも、最近では自分の言葉を自分で訴えたり、歌を歌ったり、太鼓を叩いたり、ラップをしたり、色々なアピール方法が行われています。

コールも一つのアピール方法ですが、街の人たちとコミュニケーション、対話をするようなメッセージの伝え方を考えましょう。誰か一人がメガホンを持つのではなく、メガホンをまわして複数の人がメッセージを伝えることも出来ます。

自分たちが街の人たちに伝えたいこと、街の人たちの反応、参加者の思い、そういったものを大切にすると、デモになったら素敵です。

デモが終わったら、感想や記録をネットなどに公開しましょう。そこからまた新たなコミュニケーションが始めるかもしれません。